読売 2012、7.23(月)

読売新聞

（第3種郵便物認可）

ミュージカル劇団旗揚げ

市民ら80人、福島避難者も

加須から本場NYへ！

10年後上演目標

地域を歌と演劇で盛り上げようと、加須市民ら約80人が22日、同市騎西生涯学習センターでミュージカル劇団の結団式を開いた。プロ歌手やミュージカル俳優などを講師に週1回練習を行い、米ミュージカル映画を題材に年1回の公演を行っていく考えだ。

ニューヨーク公演の実現を願い、紙飛行機を飛ばす参加者ら（加須市で）

劇団名は「ミュージカルかぞ」。同市出身で、東京・新国立劇場のオペラ歌手阿瀬見貴光さん(38)が総監督を務める。

阿瀬見さんは昨年、市観光大使に委嘱され、「故郷のために何かできないか」と考えるようになった。その頃、自身が指導する市内の合唱団「ハーモニーかぞ」の初代団長で、市内で仏具店を営む折原久義さん(67)から劇団設立を提案され、意気投合。準備を進めてきた。

地元の民話を題材にオリジナルのミュージカル作品をつくり、10年後に本場・米ニューヨークで上演することを、劇団としての大きな目標に掲げる。

題材にする民話は、雷に打たれた農家の男性が、神社の明神様に命を助けられるという民話「不思議田」。加須市ゆかりの作家小島達矢さん(25)（さいたま市）が脚本を担当し、劇団の上演作品として、5年後の完成を目指すという。

劇団参加者は、就学前の子どもから高齢者まで幅広い。原発事故で避難した福島県双葉町の住民もいる。

結団式では、名作「サウンド・オブ・ミュージック」の「ドレミの歌」を歌って体を動かす初めてのレッスンが行われ、10年後のニューヨーク公演に「たどり着ける」との願いを込めて、一斉に紙飛行機を飛ばした。

阿瀬見さんは「ニューヨーク公演は、現地の協力者も期待できるので、10年あれば十分実現は可能。皆さんと楽しみながら、最高の場所を目指したい」と話す。

参加したヨガ講師吉羽咲貴好さん(57)は「ミュージカル女優になりたいという子どもの頃の夢を、実現させたい」と力を込めた。原発事故で福島県双葉町から避難した県立杉戸高1年高橋茉佑さん(15)は「10年後の生活は想像もできないけど、ニューヨークの舞台に立ててたらいいな」と笑顔を見せた。

劇団では、団員を募集している。会費は月4000円。問い合わせは、事務局の折原さん（0480・61・3020）へ。